



選考委員特別賞
那須正幹賞

たいしゅんこん虫記

村田 大駿

一、カマキリの世かい

草はらのかりゅうどをしていますか。それは、カマキリです。カマキリは、つよいあこと、つよいカマのよくな前足をぶきとしています。その草はらのかりゅうど、カマキリのはなしをしていこうと思います。

ぼくが、けんきゅうしたのは、オオカマキリです。わたしたちのしんけいは、首にありますね。カマキリやバッタも同じです。足や首のしんけいも、首からつながっています。そしたら、カマキリは、バッタの首から食べはじめます。さつきいっていたから、わかります

ね。そうです。しんけいをこわすんです。ハチがヨトウムシのしんけいを、さしているのと同じです。そのように、カマキリは、えものを食べるのです。つぎにすすみましょう。

オスとメスはどっちが大きいかしていますか。「それは、メスです。」としたら「メスがつよい。」と、思う人がいるかもしれませんね。そうです。そのとおりです。つよいどころか、「けっこうしてくれといっているオスさえ食べてしまうのです。なんとおそろしいおよめさんのことでしょう。けれども、「おや。」首と頭まで食べられてもまだ生きています。しかもそれどころか、オスはメスによるこんで食べられているようです。まるで、オスがメスに「どうぞ。」とでもいったかのようです。おかしいですね。しんでしまってもいいのでしょうか。オスはタコのように、きられていたたり、食べられていたりしてもきずかないのです。では、ほかは、どうでしょう。ぼくは、チョウウセンカマキリとハラビロカマキリとココカマキリの3しゅるいをじっけんしまし

た。どれも、けんかしたり、オスを食べたります。どうしてともぐいするのでしょうか。それは、ぜんねんながら、ぼくでもわかりません。

二、クモのさいのう

あみをつかって、えものをとる、こん虫ハンター。なんだかしていますか。クモです。クモは、大きい、糸の家にえものがひっかかるのをまちかまえています。ぼくが、けんきゆうしたのは、コガネクモです。そのコガネクモにえさじゃないものをあげてみましょう。

ある日、ぼくが、外にでているときに、木のさけ目から、えだまでのすがありました。ここでポケットに手をつこんでみたら、ティッシュのきれはしがありました。それをすになげたらティッシュにちかずいていきました。そしてかんだのですが、すぐにはきだして、下へいって、すから、体をもち上げて、ポイツときれはしをすててしまいました。

つぎは、そこらへんにあったはっぱをちぎってあげました。それもあとですてられました。なん回やっても同

じです。口にあわないものは、すてるというきのうがあるのかなと思いました。

三、毛虫のうごき

毛やこながとびちると、かゆくになったりはれたりしてしまおうという毛のもちぬしの毛虫。つぎはこの毛虫について、しらべていきましょう。

ぼくが、がっこうにいるとき、まだ一年生のときでした。みんなが、大きい木の下で「毛虫、毛虫。」と、さけんんでいます。それは、ヨトウムシにいました。それを見てぼくは、「ガのよう虫だということになってひどいことをするのだろう。」と思いました。なぜかというともみんなが、木の上にいる、毛虫をおとそうとついでいるのです。そうこうついでいるうちに落ちてしまいました。たまたま木のちかくに、ビニールぶくろがあったので、それをとって石でまわりをふさいで、毛虫をまもりました。それでみんないってしまつたら、木の上にもどしてやりました。そのうごき方が、へビのようにくねくねでしたので、ぼくは、うごくしんけいがへビとお

んなじなのかなと思いました。

四、アリの帰りみち

かまれるといたいあこのもちぬしのアリ。

つぎは、アリの生まれつきもっている力をけんきゅうしていこうと思います。まず、アリのしんるいにあたる、ハチからしらべていきましよう。

ぼくは、一ど、ハチを見たことがあります。ミツバチです。それは、羽がちぎれていました。あとでバツタをつかまえて、いれたとたんに、にげられてしまいました。夕方。帰りとちゆうでハチが家の前の花にとまっていました。そこは、今日の昼にあのはねがちぎれたハチがいたところでした。そのハチをつかまえてみると、「うわあ。」そのハチはとちゆうでにげた、あのハチだったのです。これで、わかりました。アリのいは、かならず家にかえるという力があるのです。アリでは、どうでしょう。

がっこうにあった石をどけてみると、いったいのアリが、わになってまわっています。それを木のえだで、つ

ついて見ました。一回バラバラになったけど、すぐに、れつにもどりました。つぎは、一びきをとってどけた石の上におきました。すると、いきなりきたみちをもどっていききました。どこにいくかと思ったら、れつの中に入り、また、れつといっしょにまわりはじめました。これで、わかりました。アリは家へのみちをぜんぶおぼえているのです。